

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201348
法人名	株式会社 愛誠会
事業所名	はなまるホーム馬淵
所在地 (電話番号)	静岡市駿河区馬淵4丁目10-39 (電話) 054-283-8655

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年9月10日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人 非常勤 3人 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 鉄筋 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(30か月)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	溝口病院・田中歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静岡駅から南へバスで10分余りの、静かな住宅地にある。近隣には医療機関や商店・学校・公園等があり、生活しやすい環境といえる。開設から3年6ヶ月、職員は20～50代と幅広く、定着している。食事は暮らしの中で重要な位置にあることを意識し、専属の職員が利用者のできることを支援しながら調理している。職員の表情や利用者の笑顔や明るさから理念に添った「あるがままを受け止め見守るケア」の姿勢が汲み取れる。地域との関係作りに努め、更なる発展を期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との関係作りが稀薄であることを承知しており、ホームへの理解と周知、ホーム機能の還元について検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、意見を出し合い、まとめた。評価を定期的に行うことで課題を共有し、改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在、実施に至っていない。利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員等様々な立場の参加が得られるよう働き掛けられたい。行政担当者には、課題として協力を依頼されたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見や要望を出してもらえようホーム便りや電話、来訪時に伝えている。出された苦情や意見には即対応し、運営面に反映するために会議に取り上げている。家族アンケートも取り組み状況が概ね良い結果である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的な挨拶や周囲の清掃等を行っているが、地域との交流は少ない。運営推進会議を立ち上げ、ホームへの理解を促すように働きかけていくことを期待する。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あるがままを受け止め、見守り、ケアする」を理念として取り組んでいる。近隣住民の利用を優先し、住み慣れた地域での生活と環境を確保した地域密着型のホームをめざしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示している。具体的ケアについてミーティングで統一を図り、支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会費を納め、行事に参加したり、周囲の清掃等を行っているが、交流は少ない。地域での認知度が低いと考え、その対策を検討している。手品や歌などのボランティアの受け入れを行っている。	○	ホーム側から交流の場を提供したり、ホームの様子等を発信するなどの働き掛けを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や活用について職員に説明を行い、意見を出し合う機会をつくりまとめた。地域との交流については、課題を共有している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長が隣の町会の方で交流がなく、近隣の人の理解も乏しく、今のところ運営推進会議は開催していない。構成メンバーで足踏みしている状態にある。	○	利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員等参加できるメンバーで開催し、徐々に様々な立場の人への参加を働きかけるなど実現に向けて取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	生活保護者の利用を受け入れたり、介護相談員を受け入れ、社会福祉課・高齢者介護課・地域包括支援センター等とも連絡を取っているが、ホーム担当とは現状報告・相談等行っていない。	○	介護保険者である行政担当者とは、運営やサービスの課題について共に解決を図っていく取り組みが大切であり、まずは現状を理解してもらうための積極的な働き掛けを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月請求書や小使いの報告と共に「はなまる通信」や写真等を送付し行事や暮らしぶりを伝えている。家族の来所時や電話で健康状態・精神面等の近況報告を行っている。職員の異動は通知により報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日頃から電話や来訪時など、何でも言ってもらえるよう促している。不満や苦情には即対応し要望に応えるよう取り組んでいる。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の定着率は高い。ユニット間の異動があるが、日々の暮らしのケアにおいて、職員の動きはユニット間で流動的であり、利用者への影響を最小限にするよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	管理者は研修への参加を促し、その内容について他の職員へ報告を行い、共有化を図っている。また有資格者が多く、一緒に働きながら学べるシステムができ上がっている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域包括支援センターで事例研修会を行ったり、地域事業所の研修等でネットワーク作りを積極的に行っている。グループホーム協議会に加入し、法人内においても、情報収集や提供に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談時は傾聴に心がけ、不安の解消に努めている。見学や体験入居システムを利用し、無理なく利用を開始できるよう支援している。また、ホームとして対応可能なサービスについて明示し、詳しく伝えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの性格や状態を理解し、利用者のできることを役割分担している。利用者は人生の先輩として尊敬し、毎日生活を共にする上で学ぶことが多い。互いに支え合う良い関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や表情、動きから思いや意向の把握に努め、職員で共有している。午前・午後の引継ぎ時、利用者と共にミニカンファレンスを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングを常に行い、月1回のカンファレンスには全職員の意見や本人・家族の意向を取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは期日が明示され、モニタリングが行われている。状況に応じて、毎日行われるミニカンファレンスで見直しを行い、実情に合った計画となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に添い、かかりつけ医への受診の付き添いや理美容院・買い物への同行、遠方の家族の依頼で利用者の身の回り品の調達等にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診は、利用者の主治医とすることを基本とし、特に希望がなければ、家族の了解のもとホームの協力医へ受診支援を行っている。受診後家族へ報告し、情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、家族と随時話しあっており、契約時「医療体制に関する指針」について説明している。終末期における対応は、本人や家族の希望を考慮しながら主治医・協力医の判断のもと、ホーム看護師による支援及び医療管理での対応が行われ、方針を関係職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応には、職員同士、常に注意を払い、利用者の尊厳を大切にしている。個人情報の取り扱いも、記録開示の同意を得るなど徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントや一日2回のミニカンファレンスなど日々の状況把握に努め、一人ひとりのペースや気持ちに配慮した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専属の人が、昼と夜の分を作り、朝は遅番が作る体制になっている。ADLの低下に伴い困難なことも多くなっているが、準備や片付けは可能な範囲で参加できるように支援している。献立は臨機応変で野菜を中心とした低カロリーのメニューを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回、入浴時間が決まっているが、希望があれば体調を見ながら随時支援している。浴槽は三方から介助できるものと、家庭と同様のものがあり、利用者の状態で使い分けている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日中は、新聞を読んだり、歌ったり、ゆったりと過ごしている。掃除や洗濯物たたみ、料理の下ごしらえなどできることを役割分担している。野菜作りは、これまでの経験を活かして大きな収穫があり、みんなの喜びとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせての外出には、常にマンツーマンの支援を行い、職員との関係作りにも役立っている。15分位の散歩コースへは2～3人で出かけたり、受診や買い物へは車で出かけたり、ドライブなども希望に応じて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は施錠せず開放していたが、現在は利用者の状況を考慮して施錠し、家族にも説明している。鍵をかけないケアについては、状況を見ながら検討していく。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回、避難訓練を行っている。二階の利用者は介護度の低い人の居住となっており、比較的避難しやすくなっているが、エレベーターが使用できない際の、車椅子利用者の移動が課題となっている。現在、地域への協力は依頼していない。	○	災害対策には地域の協力が不可欠であり、実現に向けて取り組むことが望まれる。また地域に還元できることを提案していくことも検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心に栄養バランスを考え、献立を立てている。白米は百グラムと決め、体重増加を防いでいる。糖尿病対策にも役立ち、栄養状態も良いと医師からも評価を受けている。水分摂取量はチェック表に記録し、対応を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々と余裕のある共用空間で、掃除も行き届いている。居心地の良い環境作りに努め、季節感のある花や、写真を飾ってあったり、食堂兼居間にはソファや畳が敷いてあり、寛げる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が好みに合わせ、位牌や家族の写真、馴染みの物が置いてあり、収納場所も広くきれいに整理されている。季節ごとに、家族が衣服の入れ換えを行い、各人が好みの部屋作りを行っている。		